

夏休み前から適切な対応を！

自殺予防 対策の充実

2学期始業式前後の時期は、様々な要因から精神的に不安定な児童生徒や不登校傾向にある児童生徒に対して注意と配慮が必要な時期です。特に18歳以下の自殺は、グラフのとおり夏休み明けに急増する傾向があります。児童生徒の自殺予防対策について、夏休み前から適切な対応を確実にいきましょう。

夏休み前の対応



早期発見・相談・組織的対応がキーワード！

□ 早期発見

アンケート調査や教育相談等を実施する。

□ 相談窓口の周知

「24時間子供SOSダイヤル」や「教育相談室について」等を児童生徒や保護者へ配付する。

□ 大人への相談の呼びかけ

全ての児童生徒に対し、不安や心配事がある場合は、1人で抱え込まず、保護者、教職員、SC等の大人へ相談するよう呼びかける。

□ 学校相談窓口の周知

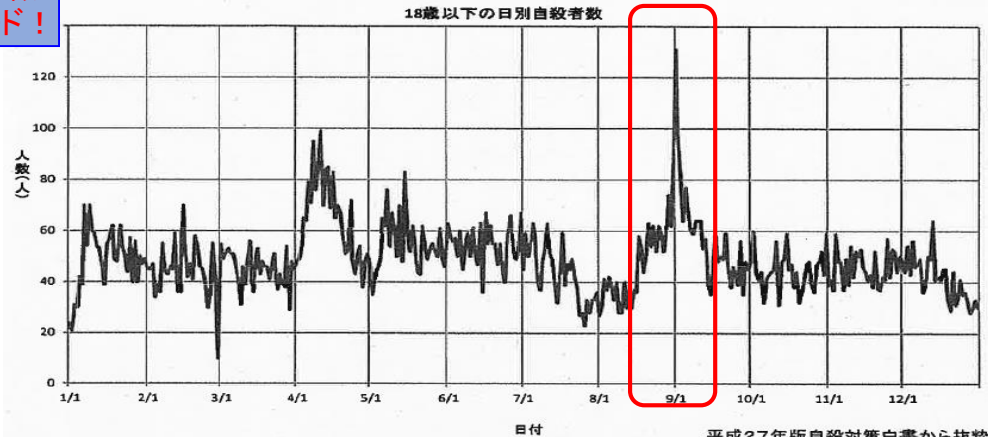
休業中に保護者が把握した児童生徒の悩みや変化について、相談する窓口を学校内に設定し、保護者に周知する。

□ 組織的な対応

気になる児童生徒については、特定の教職員で抱え込まない。

平成27年版自殺対策白書(抄)

参考



平成27年版自殺対策白書から抜粋
(過去約40年間の厚生労働省「人口動態調査」の調査票から内閣府が独自集計)

夏休み中の対応



休業前に把握した児童生徒の様子を継続的に確認！

□ 継続的な様子の確認

学校が把握した悩みを抱える児童生徒や、いじめを受けた又は不登校となっている児童生徒等については、夏休み中においても、登校日、部活動等の機会を捉え、又は保護者への連絡、家庭訪問等により、継続的に様子を確認する。